

今だけの、かけがえのない時間

<今月の聖句> 「新しい歌を主に向かって歌え。全地よ主に向かって歌え」
(詩篇96篇1節)

この間までの寒さが嘘のように、桜ほころぶあたたかい春を迎えました。
話は少し前、秋の終わりごろのこと。
園庭の木々の剪定に来てくれていた造園家のトラックを
一人の2歳の子が遠くからしばらくじっと見つめていました。
日頃から働く車に興味があるその子には
落とした枝葉がどんどん積み上がっていく荷台は格別だったにちがいない。
その強い目線に気がついたおじさんがやさしく
「荷台に乗ってみるかい？ 運転席も入っていいよ」
でもその子は傍らの保育者の手を握ったまま動こうとしない。
「どうする？」との誘い水も、数分後そのまま部屋に入っていました。
きっとまだ彼にとって「その時」ではなかったのでしょう。
もし保育者が私だったら、その子を抱っこして荷台に乗せたかもしれない。
しかしそうせず、その子の心の傍らに立ち続けることを選択したのでした。

私たち大人は時に子どもに対して「木工職人」のように振る舞いたくなる。
木工職人は様々な道具を駆使して自分のイメージする「よい形」に向かって
木の姿を自在に変え、高い商品価値を得ることを目指そうとする。
しかし、子どもにとって本当に大切なのは「庭師」なのかもしれません。
庭師はその植物の特性を生かし、植物が自ら育つよう周囲の環境を変えていく。
天候など時に思い通りにいかない逆境も、むしろその植物を強くする。庭師が
そうして忍耐強く植物を見守るように、私たちも子どもに向き合っていたい。

ある発達心理学者が「親にとって何よりのご褒美は、子どもの成績やトフィーでも
なく、卒業や結婚でもない。自分の子どもと一緒にいる、そのときどきに
体と心が感じる喜び、そして、その子があなたと一緒にいて喜んでいることだ」
と言うように
今しか出会えない子どもとの豊かな時間を愛しみ、守り育てていきたい。
(つくし保育園園長 つだかずお)

※子どもと共に礼拝しよう 毎週日曜日あさ 10時30分(醍醐教会)
いつでも、初めてでも歓迎します。楽しい聖書のお話。
うつくしい讃美歌をご一緒に。